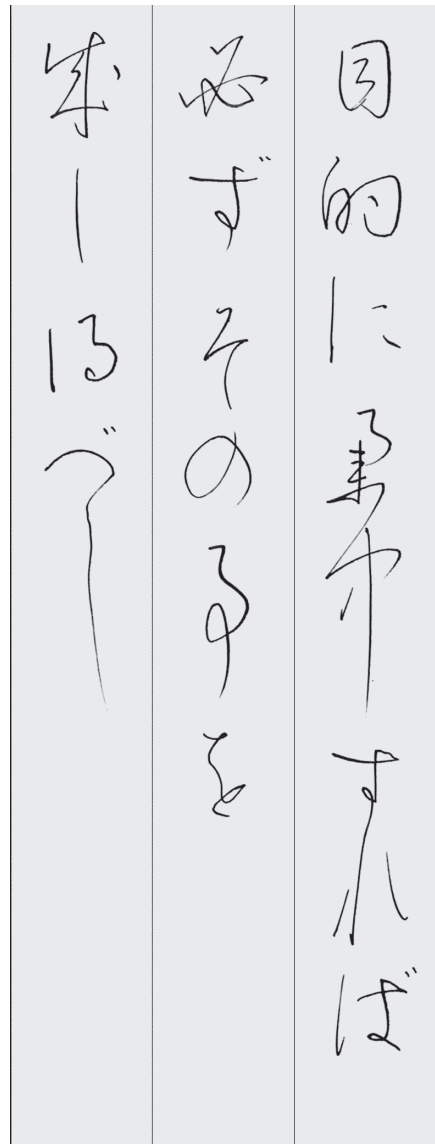


憲照先生の手本ア・ラ・カルト (36)  
(à la carte)

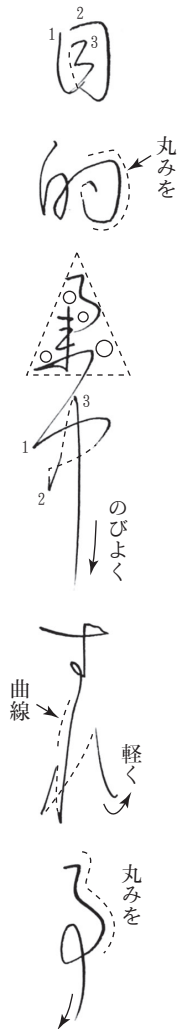
締切り 十二月十九日 (必着)

昭和57年5月



つけペン・墨汁使用

〔解説〕



◎本会は、今年で創立六十八周年を迎えます。まだまだ世の中には、新型コロナウイルス禍の影響で、世界中が不安の中にいます。しかしながら諸先生、会員の皆様の「書」への意欲は消えることなく、時間と共に基本的活動は戻りつつあります。

◎今年の短期特別課題は、昨年同様『原点回帰』をテーマとして、本会の創設者奥村憲照先生の手本を改めて学び直すことにいたします。

お手本は、硬筆、毛筆、一般部、教育部なども合わせれば相当数あります。同一課題を楷・行・草の順で繰り返し、掲載していく予定です。

◎多くの方がかつて憧れた憲照先生の書と向き合うことで、書への情熱を今一度燃え上がらせていただければと思います。

◎創立七〇周年に向けて、力強く歩んで行きましょう。

★目的に：(書体＝草書)

春日潜庵(一八一一～一八七八)

江戸末期から明治初期の陽明学者・儒学者

「如何に弱き人と雖ども、その全力を単一の目的に集中すれば、必ずその事を成し得べし」が全文。

どんなに強くて優れた人でも、あれやこれやと手を伸ばして力が分散してしまうと、どれ一つとしてきちんとやり遂げることができません。

だからだと学んだり働いたりするより、これと決めたら一心不乱に集中すれば、いかに弱い人でも大抵のことはものになるものです。

〔作品の出し方〕

▼今回も硬筆部だけに限ります。全員本会段位用紙に書いて下さい。硬筆を習っていない方も、出品は可能です。ご自由にどうぞ。

▼用具は自由ですが、線美を追求するためには、つけペン・墨汁をお薦めします。

▼出品制限の対象とはなりません。

▼事務処理上、支部略称・氏名・会員番号・硬筆規定の成績を、作品余白にお書き下さい。

※不明な点は無記入でも結構です。

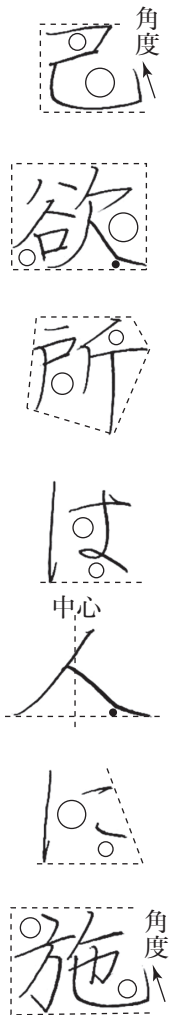
▼優秀作品は、写真版として成績表の後ろに掲載しますが、成績表での順位発表はしません。

▼月例作品と同封する場合は、必ず別のビニール袋に分け、表に「月例」「短期特別」と明記して混同しない様お願いします。

準初段から六段まで

新入から1級まで

〔解説〕



▶教範・書範は右課題を「行草または草書」で、師範は「行書」で出書して下さい。

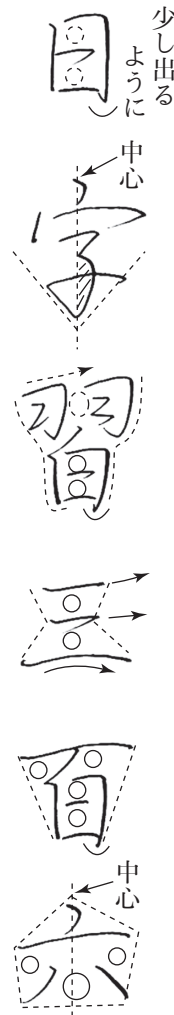


新井龍峰書

▷用具=自由(黒色に限る)

▷用紙=本会段位用紙

〔解説〕



古田瑞苑書

▷用具=自由(黒色に限る)

▷用紙=本会級位用紙

- ◆1月課題予告(行書) 怒りは 無謀をもって始まり 後悔をもって終わる
- ▼教範・書範||楷書
- ▼師範||行草または草書

★己の欲せざる…(書体||楷書)  
 「論語」孔子(前五五二〜前四七九)  
 孔子の弟子で孔門十哲の一人である  
 子貢(しこう)は、ある日孔子に向  
 かって「人として終生、行わなければ  
 ならない事を一言で言ったらどうい  
 う事か」と尋ねました。それに答えた孔  
 子は「それ恕(じよ)か。己れの欲せ  
 ざる所は……」と言いました。意味  
 は、「それは人に対する思いやりであ  
 る。自分が欲しない事は人も欲しな  
 いのだから他人に向かってしてはなら  
 ない」ということです。

- ◆1月課題予告(楷書) 教育とは 才能をひき出す ことだ

★一日一字…(書体||行書)  
 「童子教」江戸時代の教科書  
 寺子屋などで江戸時代に使われてい  
 たこの教科書「童子教」は、学僧安然  
 の作と伝えられています。  
 この文は「一日一日の勉強を怠らず  
 続けよう」という教訓です。あたり前  
 すぎるほどあたり前のことを言ってい  
 るわけですが、この平凡な言葉には不  
 滅の真理が含まれていると言えます。  
 学生達にはもちろんの事、我々書道  
 を習う者としても、普段の練習を大切  
 にしなければいけないと、改めて感じ  
 させられる言葉であります。

準初段から六段まで

新入から1級まで

行燈の煤けぞ寒き雪の暮れ  
乃須、希曾支連

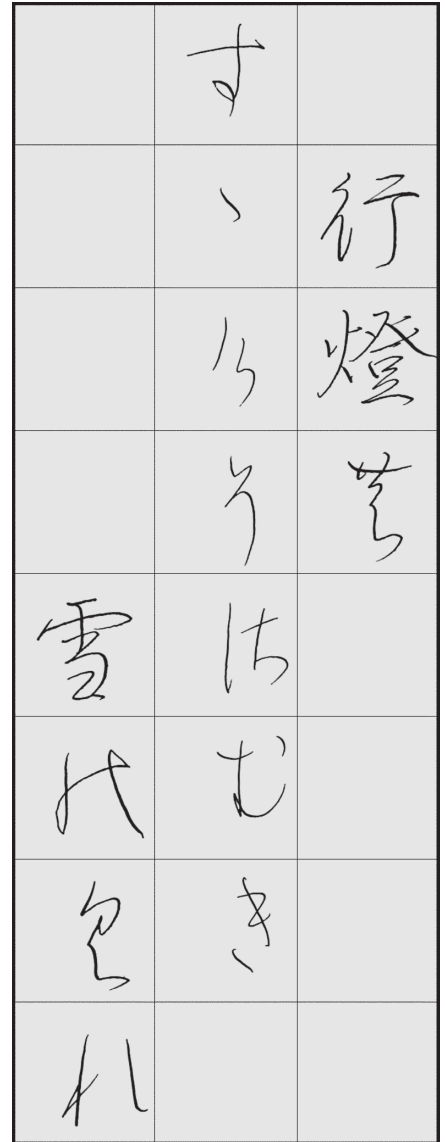


た なか き こう 書  
 田 中 貴 光 書

▷用具=自由(黒色に限る)

▷用紙=本会段位用紙

行燈の煤けぞ寒き雪の暮れ  
農す、介曾佐む能具



た なか き こう 書  
 田 中 貴 光 書

▷用具=自由(黒色に限る)

▷用紙=本会級位用紙

■両課題とも、文字の変換・配字は自由です。

◆1月課題予告

下京や雪つむ上の夜の雨

(野沢凡兆)

【解説】一・三行目の漢字が画数の多い字ですので、二行目は少し縦長の柔らかな字としてください。

農の 須す 希け 曾そ 連れ  
 若 須 希 曾 連  
 若 須 希 曾 連

【古筆参考】

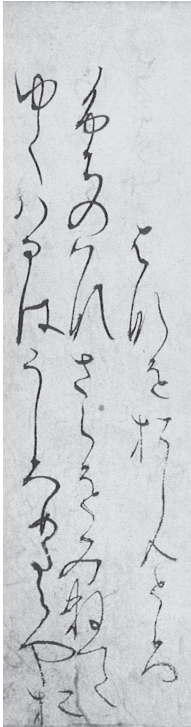
行燈の煤けぞ寒き雪の暮れ  
あんどん すす  
 (越智越人)  
 【句解】雪の夕暮れどき、ただでさえさびしいのに、煤けた行燈に對していと、一層侘びしさが身にしみてうそ寒くなってくる。  
 【鑑賞】行燈の煤けたのは侘びしい感じが深いもので、その感じを「寒き」ととらえ、その主観に、寒い雪の日の夕暮れどきとおくことによつて客観化したわけである。寒さやさびしさという冬の情のこめられた佳作である。

締切り 十二月十九日（必着）

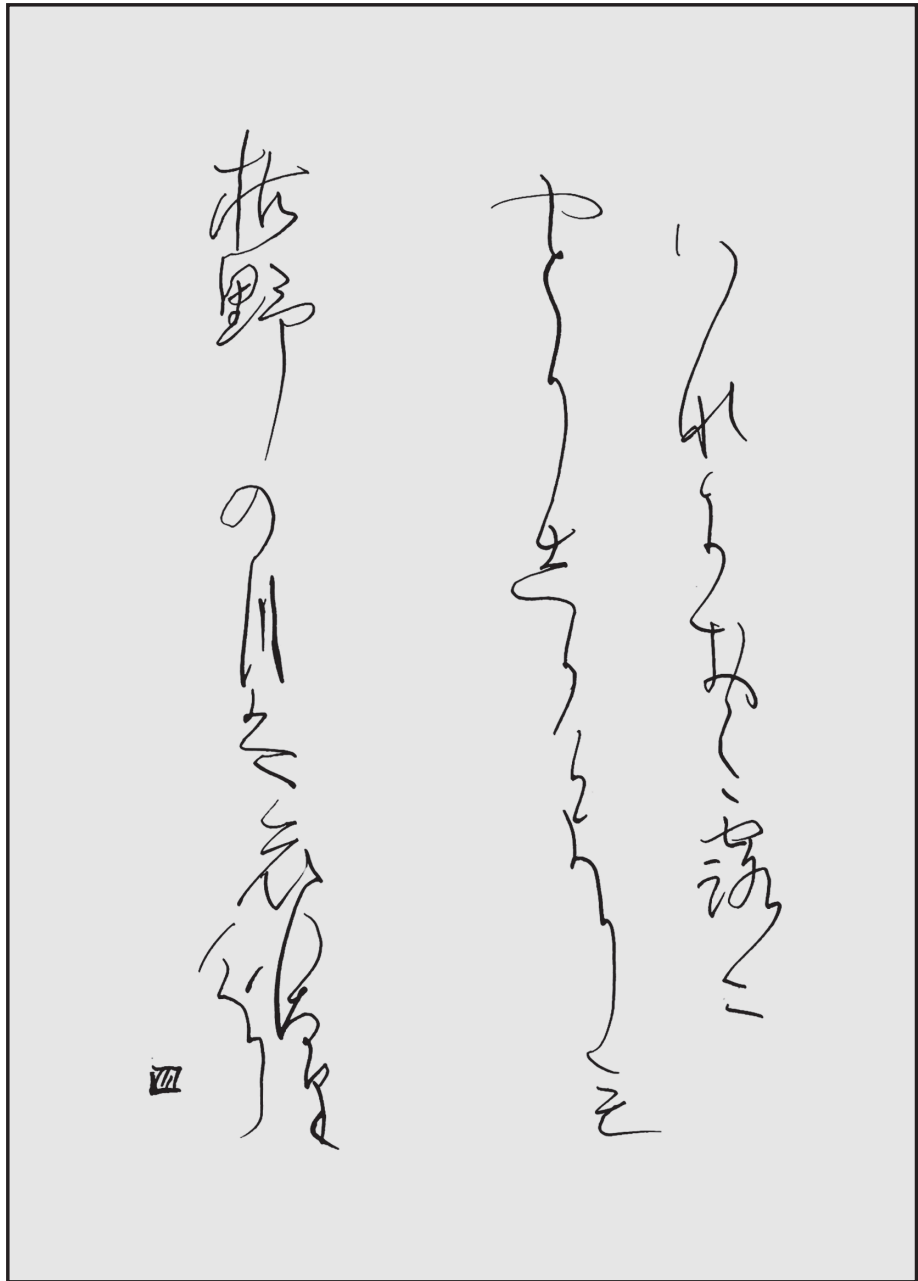
築瀬舟香書

〔古筆参考〕

なかつかさしゅう  
中務集



者那はなをおしむところ  
布ぬちのはなさくをみすて、  
ゆくはるはうしろめたくやお

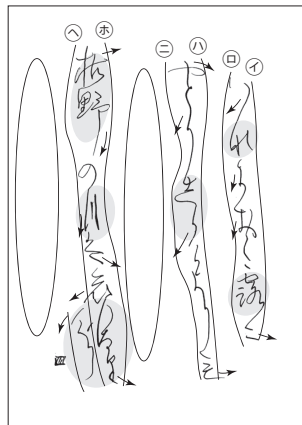


花ハナにおく露つゆに宿とどりしかげシカゲよりも  
枯野カラノの月ツキはあはれあはれなりけり

〔歌意〕 秋草の花に置いてとりどりの色を見せた露に宿った月の光よりも、草木も枯れはててしまった野を照らす冬の月の光は一層あわれ深いよ。

〔出典〕 新潮日本古典集成

〔解説〕



- ①と②、①と③、①と④、①と⑤、②と③、②と④、②と⑤、③と④、③と⑤、④と⑤、④と⑥、⑤と⑥、⑤と⑦、⑥と⑦、⑥と⑧、⑦と⑧、⑦と⑨、⑧と⑨、⑧と⑩、⑨と⑩、⑨と⑪、⑩と⑪、⑩と⑫、⑪と⑫、⑪と⑬、⑫と⑬、⑫と⑭、⑬と⑭、⑬と⑮、⑭と⑮、⑭と⑯、⑮と⑯、⑮と⑰、⑯と⑰、⑯と⑱、⑰と⑱、⑰と⑲、⑱と⑲、⑱と⑳、⑲と㉑、⑲と㉒、⑲と㉓、⑲と㉔、⑲と㉕、⑲と㉖、⑲と㉗、⑲と㉘、⑲と㉙、⑲と㉚、⑲と㉛、⑲と㉜、⑲と㉝、⑲と㉞、⑲と㉟、⑲と㊱、⑲と㊲、⑲と㊳、⑲と㊴、⑲と㊵、⑲と㊶、⑲と㊷、⑲と㊸、⑲と㊹、⑲と㊺、⑲と㊻、⑲と㊼、⑲と㊽、⑲と㊾、⑲と㊿、⑲と㊿

- 余白大切。
- 密の動き大切。

◆ 1月課題予告

いにしへに変わらぬものは荒磯海と  
むかひに見ゆる佐渡の島なり

締切り 12月19日(必着)

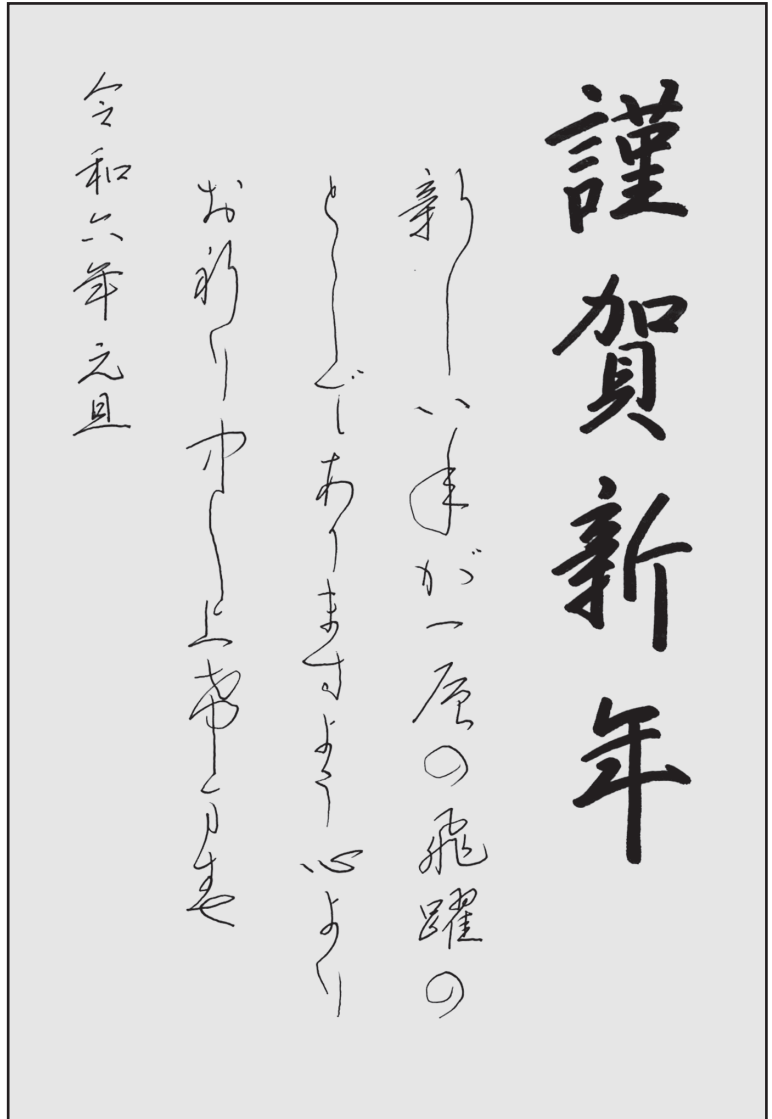
自由課題

- ◆今月は、文章も自由といたします。
- ◆皆さんのアイデアを生かして自由  
に創作して下さい。
- ◆バラエティに富んだ、個性豊かな  
年賀状をお待ちしています。

謹賀新年

新しい年が一層の飛躍の  
としてありますよう心より  
お祈り申し上げます希万春

令和六年元旦 (ご自分の氏名)



横書き課題

お 郷 すい こう 書  
尾 郷 翠 光

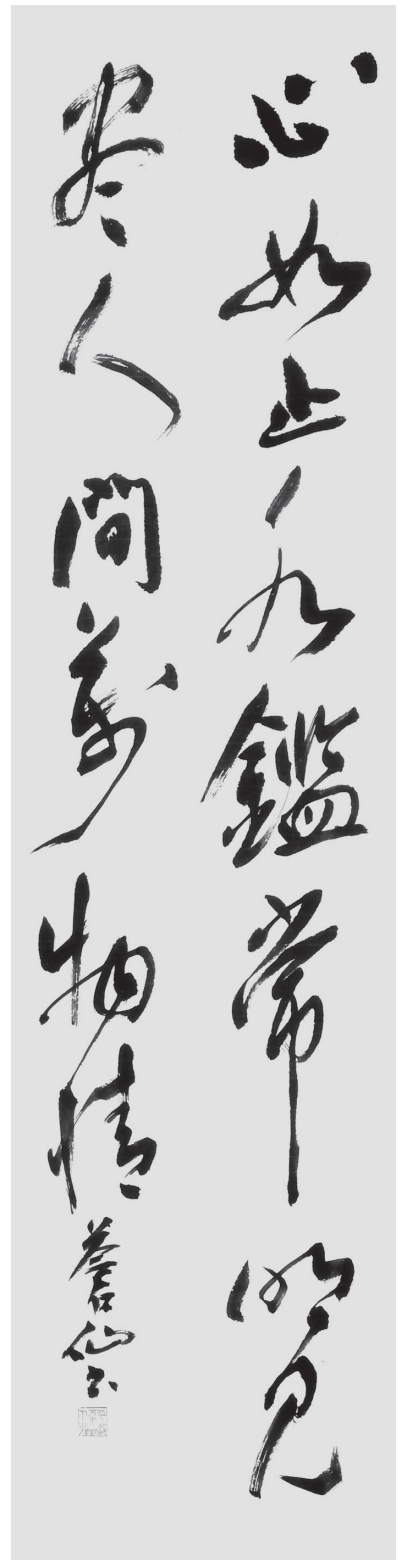
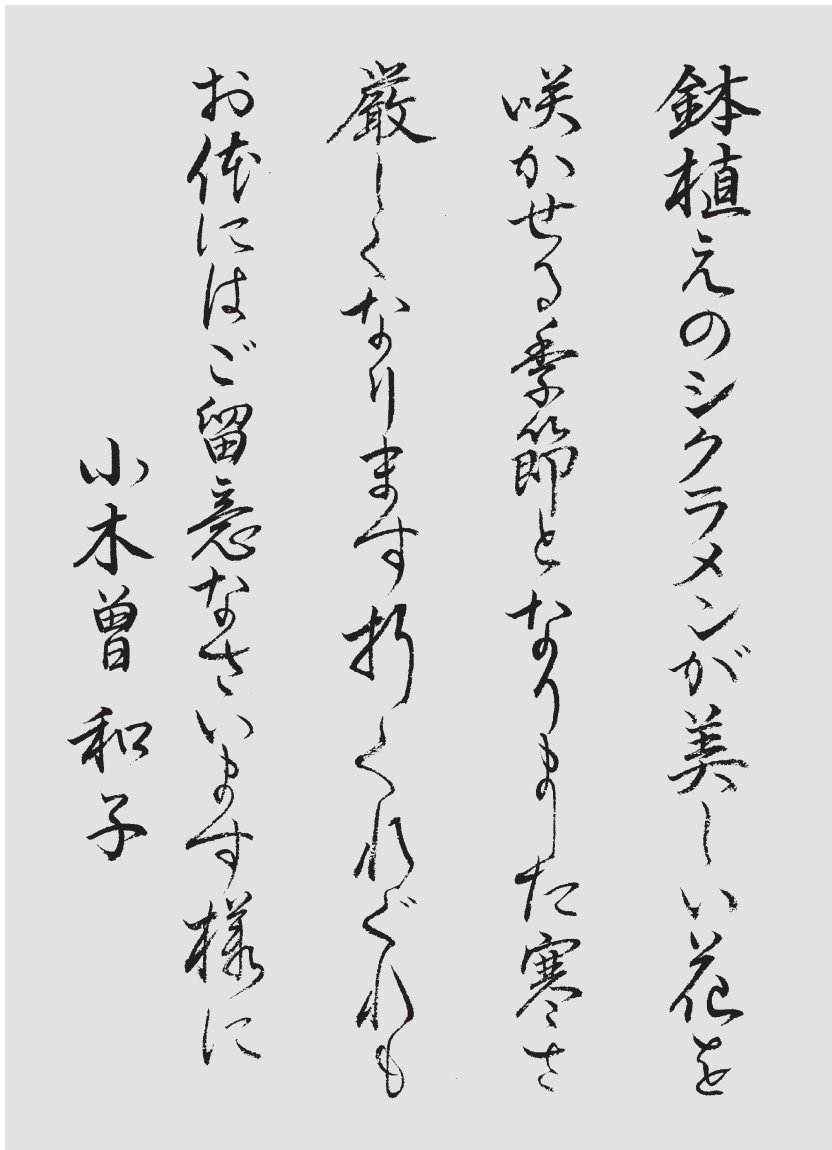
コアラは、いつも木の上で生活し  
木の葉や若芽を主食としている。

宮崎県日向市 氏 名

※手本はつけペン使用。 ★三行目は、指定の地名と氏名を書いて下さい。

一般部毛筆細字課題

一般部毛筆条幅課題



締切り 十二月十九日(必着) 半切(一三六cm×三五cm)

荻田蒼仙書

心如止水鑑常明 見尽人間萬物情 唐劉禹錫

半紙(334mm×240mm)

書香梅藤伊

※検定試験二段コースを兼ねる。

- 書体変換、変体仮名の交換は自由です。
- 成績(天位〜5等)は、評価により毎月かわります。
- 新入から師範まで、どなたでも出書できます。
- 〔条幅・細字作品の出し方〕

・印で墨つぎしました。

(ご自分の氏名)

鉢植えのシクラメンが美しい花を  
咲かせる季節となりました 寒さ  
厳しく折ります折れぬ心も  
お体にはご留意なさいませ様に

〔条幅解説〕

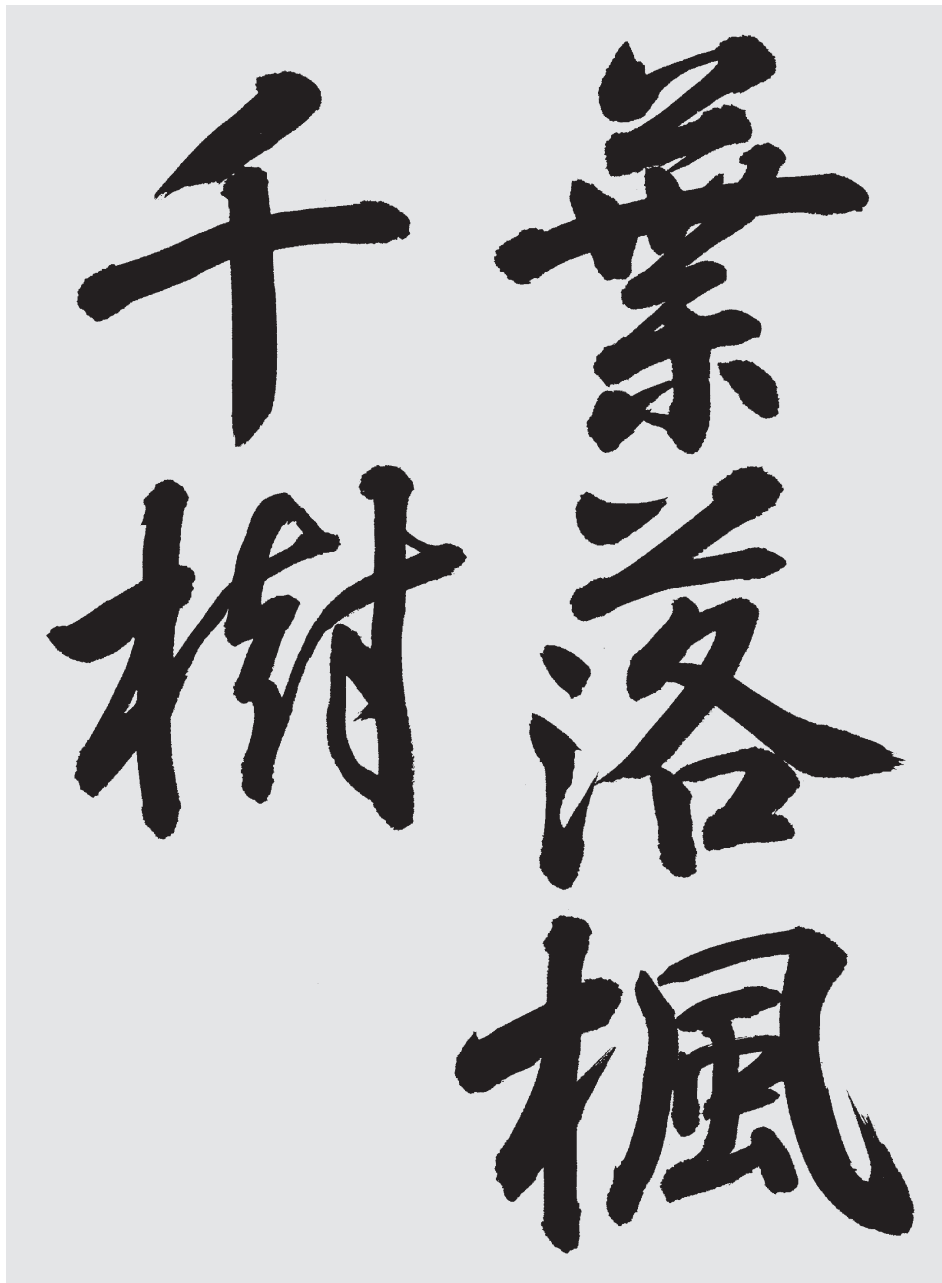
いろんな書道団体に属している方の作品を見せて頂いていますが、概ね落款が本文より落ちます。落款によってその人の実力がわかると言えます。名前だと思わないで下さい。作品なんです。落款になって途端にお習字の実用書になる方がありますが、これも価値を下げます。

〔大意〕心は静止した水鏡のように常に明らかで、世間のあらゆる物の性情をすっかり見通す。

初出品の方へ

支部名・会員番号・  
姓名・毛筆漢字成績  
を、作品左下に必ず  
お書き下さい。

新入から1級まで(行書)



ははおつふうせんじゆ  
葉落楓千樹

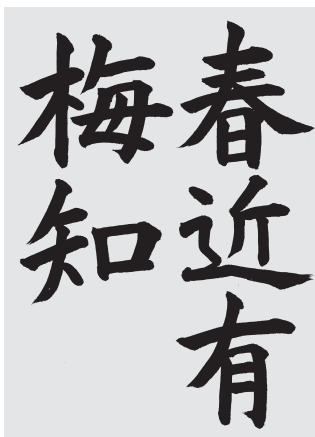
〔大意〕秋がおいおいにふけて多くの楓も紅葉をおとしてしまう。

清し  
水  
翠  
芳書

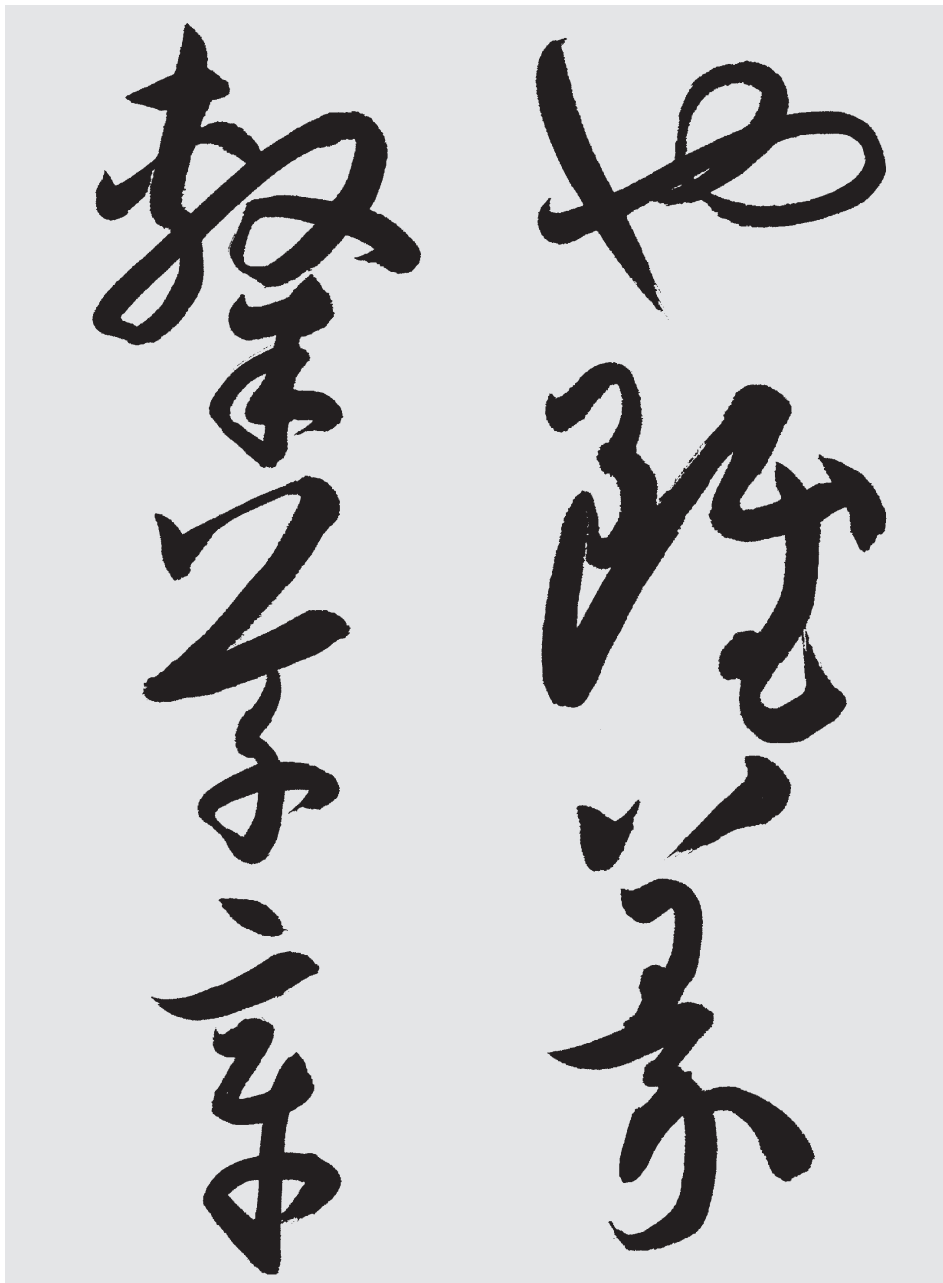
〔解説〕



◆1月課題予告(楷書)

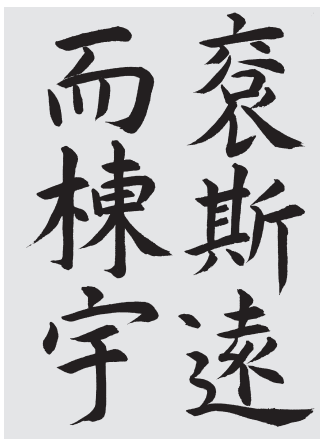


準初段から師範まで



也  
雖  
篆  
隸  
草  
章

須  
田  
一  
葉  
臨



◆1月課題予告

※文献によって字体が異なる場合があります。



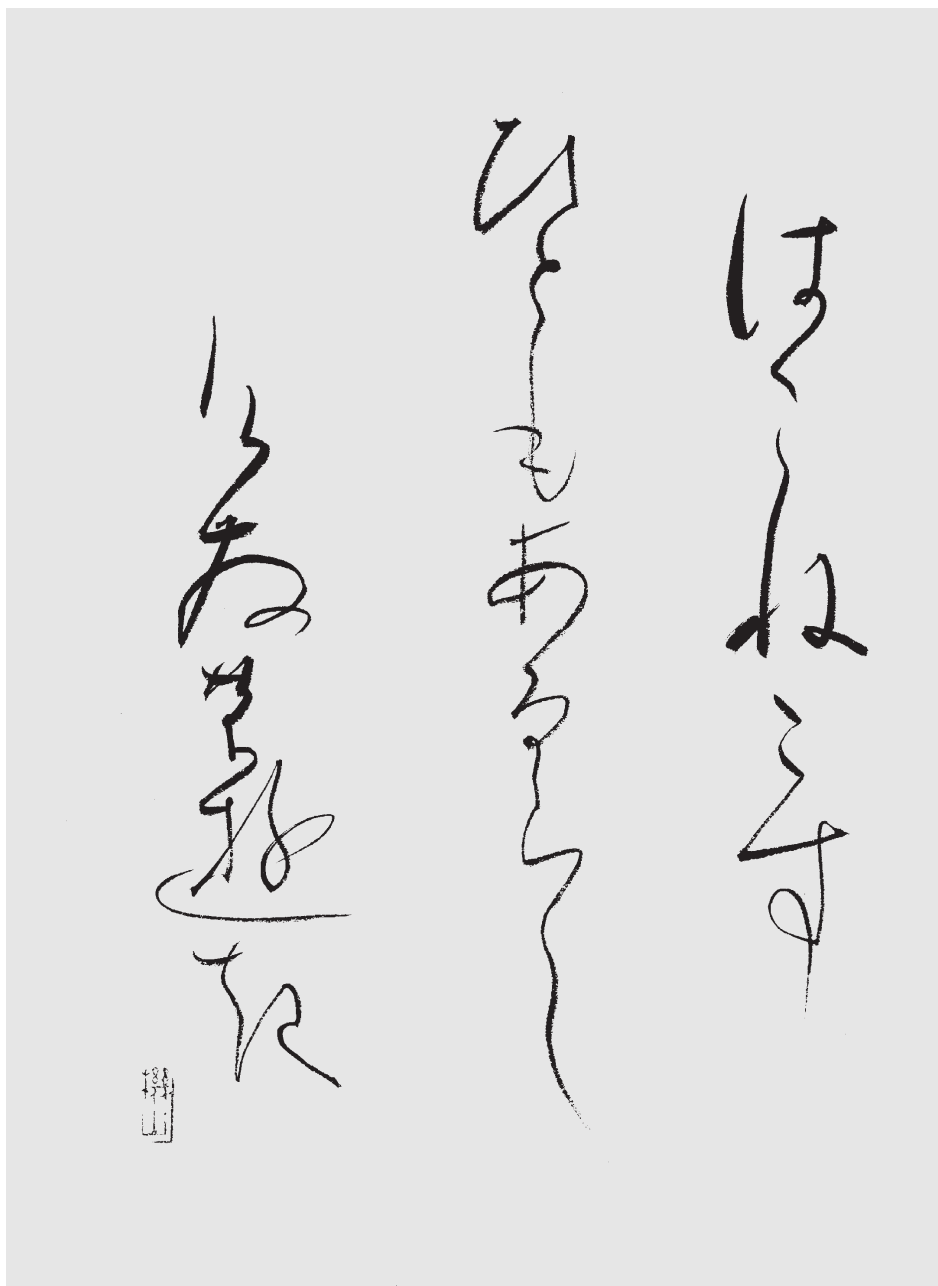
〔解説〕

〔出典〕書譜(六八七)  
〔筆者〕孫過庭(六四八?~七〇三?)  
〔読み〕(非ざれば)なり。篆・隸・草・章、(工用多変)なりと雖も、



新入から1級まで

浅井機山先生書



※検定試験1級コースを兼ねる。

箱根<sup>はこね</sup>こす<sup>ひと</sup>人も有<sup>ある</sup>らし今朝<sup>けさ</sup>の雪<sup>ゆき</sup>

松尾芭蕉

〔句意〕

名古屋での吟。いま私は人々に温かいもてなしを受けてこの雪を眺めているが、今朝もこの雪の中を箱根の難所を越す人もあるだろう、の意。旅の苦勞を思いやった句。

◆1月課題予告

我顔<sup>わががほ</sup>に薺<sup>ななめ</sup>とばしるうれしさよ

〔解説〕

まず全体を見てみましょう。

3行を5字、7字、5字と書いていくと、中7が一番長く中央に来ることになります。上5と下5は短くなるので、どちらかを上にし、もう片方を下にするようになります。

この段階では、散らし書きに重きを置かず、〈1行の構成の変化〉を作るにはどうしたらいいかを学びます。

それでは、1行ずつ見ていきましょう。

「はこねこす」

「は」、第1画は空中からスーッと入って、グーッと引いて、また空中に舞い上がるという感じ。いわゆる〈抑揚〉のある線です。

「こね」、小さく細い線から太く力強い線に移行していきます。

「こす」、また細く、更に細くして下の余白に進みます。

「ひともあるらし」

「ひ」、やや右へ傾けると「と」になぎやすい、「あ」の横線縦線やや左へ傾け、「ひ」とのバランスを取ります。最後の「し」はのびやかに余白を突き刺します。

「介散農遊起」

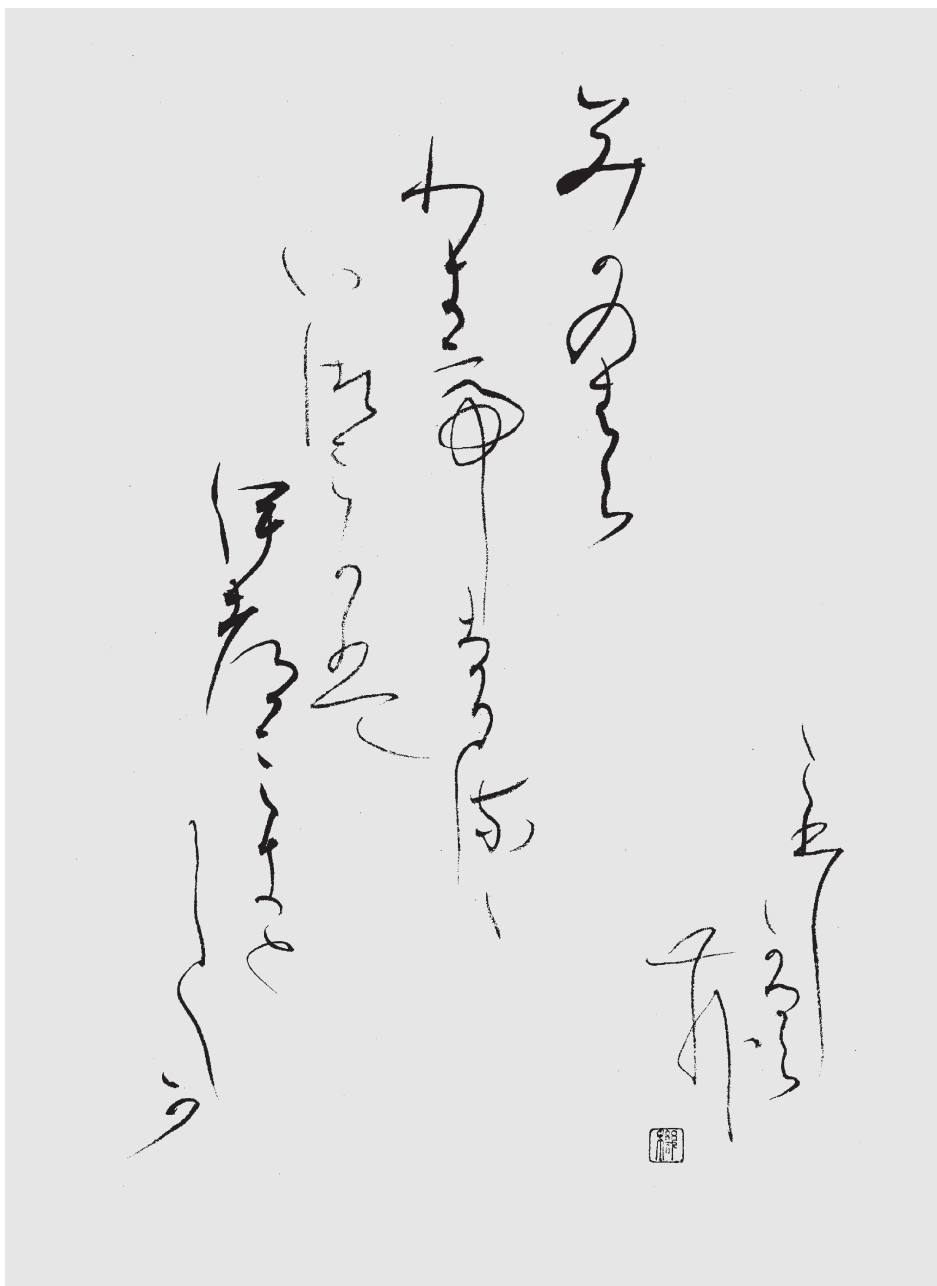
「介」、縦線から入る字は上の余白が広く感じられます。

「遊」、大きく華やかに。

「起」、終画は「し」と「す」をまとめて。

準初段から師範まで

浅井機山先生書



※検定試験三段コース以上を兼ねる。

美可 者のら 支帝奈可流、い徒三可盤  
みかの原わきて流るる泉川

伊都三支 可可悲  
いつみきとてか恋しかるらむ

ふじわらのかねすけ  
藤原兼輔

〔歌意〕

〔瓶の原を二分して、この原に湧いて流れる泉川〕  
いつ見たというので、あの人のことが、このように恋しいのであろうか。

◆1月課題予告

子の日してしめつる野べの姫小松  
ひかでや千代の蔭を待たまし

〔解説〕

まず全体を見てみましょう。

この散らし書きを「返し書き」と言います。最初「美可の者ら」を書いて、紙面の左いっぱいになったところで、右端に戻って「可悲」から歌の最後まで書いて雅印を押しておさめます。

さて、1行ずつ見ていきましょう。

「美可の者ら」

「美」、右前を3分の1程あけて書き始めます。力強く、「可の」で力を抜き、小さい「者ら」で太い線を入れて、短い1行の変化を作ります。

「わ支帝奈可流、」

「わ」、幅広く書き出し、「支」はやや太くして引き締め、「帝」の華やかさは少し太い線も入れながら、クルクル回ります。クルクルは同じ速度で回ると失敗しますから、どこで毛先が向きを変えるか捉えてからリズムに乗って回ります。

「い徒三可盤」

「い」、かすれてきても慌てず、ゆったり書くと仮名の渴筆はうまくいきません。

「盤」まで力まず、ゆったり大きく運筆しましょう。

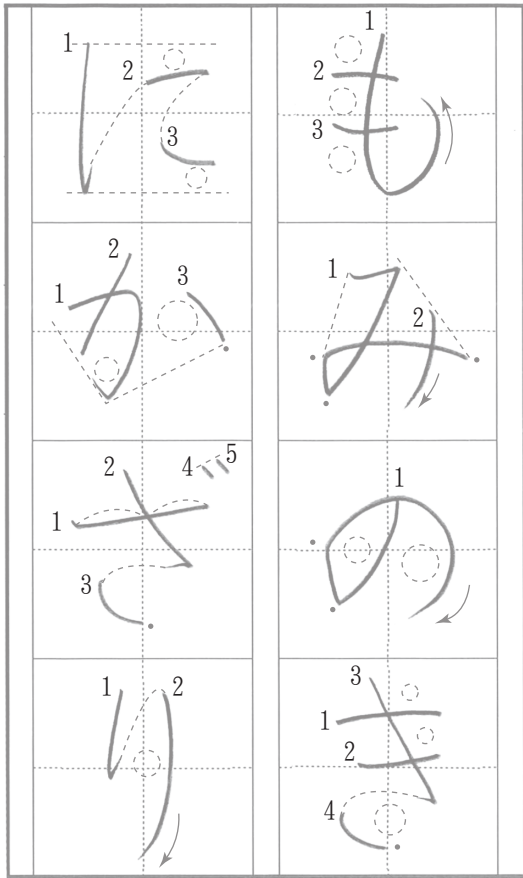
「伊都三支と可」

「伊都」、右上「美」を見つめて力強く。

「可悲し可るら舞」

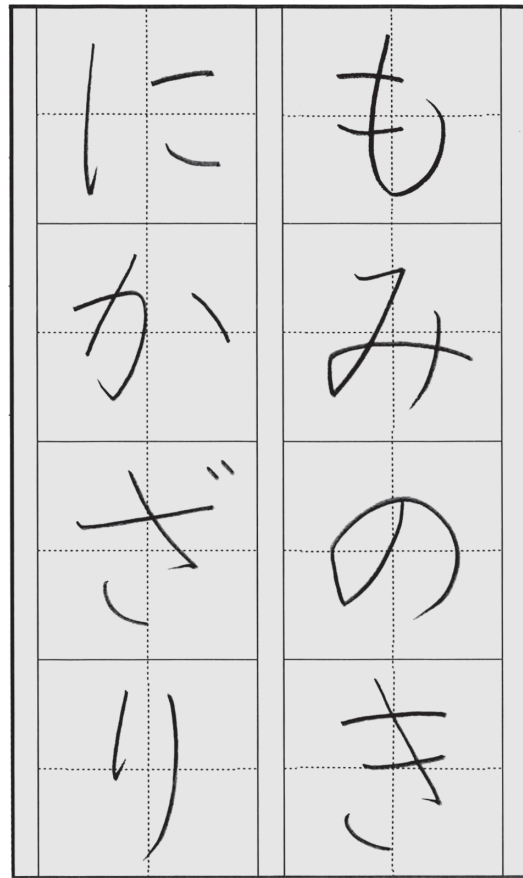
右の大きな余白に、バランスを取りながらいい位置から書いて、強すぎないように書きおさめます。

〈ようぐ〉自由(黒色にかきこむ)



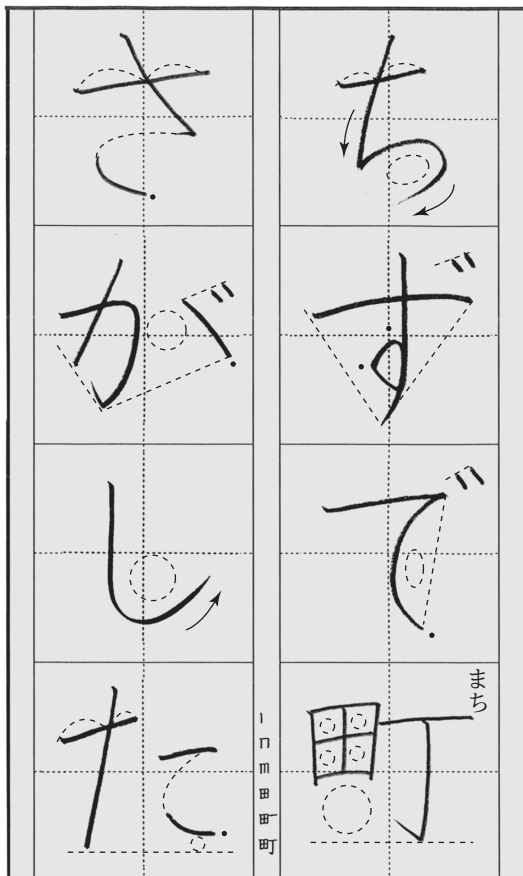
◆ひらがなトレーニング(なぞってかいてみよう)

★新入は、年少・年中・年長の別を記入して下さい。  
★幼年は、全員8マス用紙で出書して下さい。



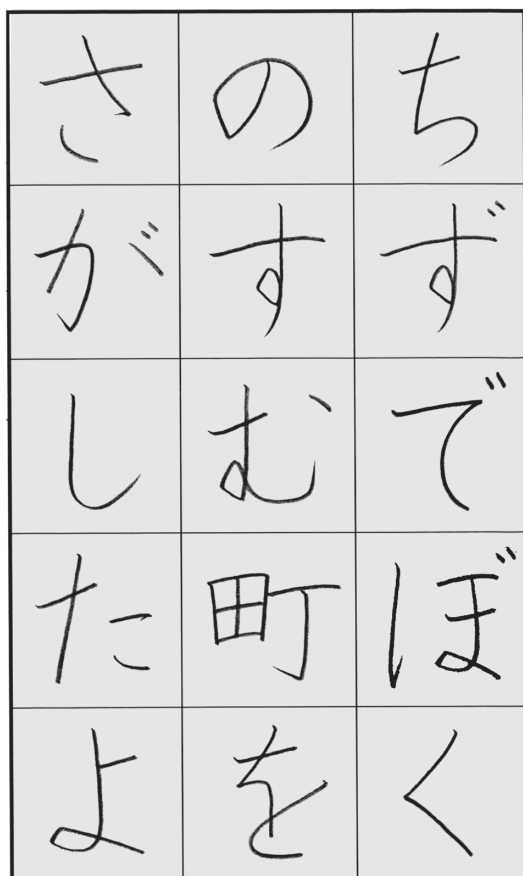
幼年

幼年〜小三年まで  
三宅容玉書



新入〜1級

(注) えんぴつ書きでは、消しゴムを使ってはいけません。



小一年

準初段以上

〈ようぐ〉自由(黒色にかぎる)

て	百 <small>ヒヤク</small>
交 <small>コウ</small>	円 <small>エン</small>
番 <small>バン</small>	も
へ	つ

新入〜1級

つ	た	弟
て	百	が
交	円	ひ
番	を	ろ
へ	も	っ

準初段以上

小二年

準初段以上

め	気 <small>キ</small>
た	合 <small>あ</small>
一	い
球 <small>キユウ</small>	こ

新入〜1級

一	め	気
球	て	合
で	投	い
勝	げ	を
つ	た	こ

準初段以上

小三年

準初段以上

(注) えんぴつ書きでは、消しゴムを使ってはいけません。

〈用具 自由(黒色に限る)〉

フカ刀切辺	ヘン	チユウ
刃	中	中
	ハム中央	オウ
の	央	央
	ムサ首首道	ドウ
お	道	道
みせ	シユウ	周
店	周	周

新入1級

べ	の	中
出	お	央
か	店	道
け	を	周
る	調	辺

小四年

準初段以上

小四年以上  
岡嶋桂川書

サイ	たがや(す)
菜	耕
と(り)	はたけ
採	畑
た(べる)	ふゆ
食	冬
	ヤ
	野

解説(よく見て習いましょう)

採	冬	耕
り	の	し
食	野	た
べ	菜	畑
る	を	で

小五年

(全員)

小五以上は、全員15マス用紙で出書して下さい。

小六年

に	科	将
な	学	来
り	の	は
た	博	自
い	士	然

(全員)

※博士Ⅱ「はくし」とも「はかせ」とも読みます。

解説(よく見て習いましょう)

科	将
学	来
博	自
士	然

〔用具〕自由(黒色に限る)

中一年

卓	ん	彼
球	は	の
の	有	お
選	名	兄
手	な	さ

(楷書)

中二・三年

(楷書)

息	を	冬
災	食	至
を	べ	に
祈	無	南
る	病	瓜

〔読み〕南瓜Ⅱかぼちゃ

▼小三年以下の課題 い とう てい こう 伊 藤 汀 香 書

※今年・一日＝単語としてこのように読みます。

一	が	今	お	明			
月	ん	年	め	け			
一	ば	今	で	ま			
日	ろ	年	と	し			
	う	も	う	て			
		元					
名		気					
ま		に					
え							

◎お手本はえんぴつ使用



しめきり 12月19日 (必着)

習っていない漢字は  
ひらがなで書いてもよろしい。

▼小四年以上の課題 こん どう が こう 近 藤 雅 洸 書

元							賀
旦	い	健	ご				春
	た	康	家				
氏	し	を	族				
	ま	お	皆				
	す	祈	様				
名		り	の				

◎お手本はつけペン使用

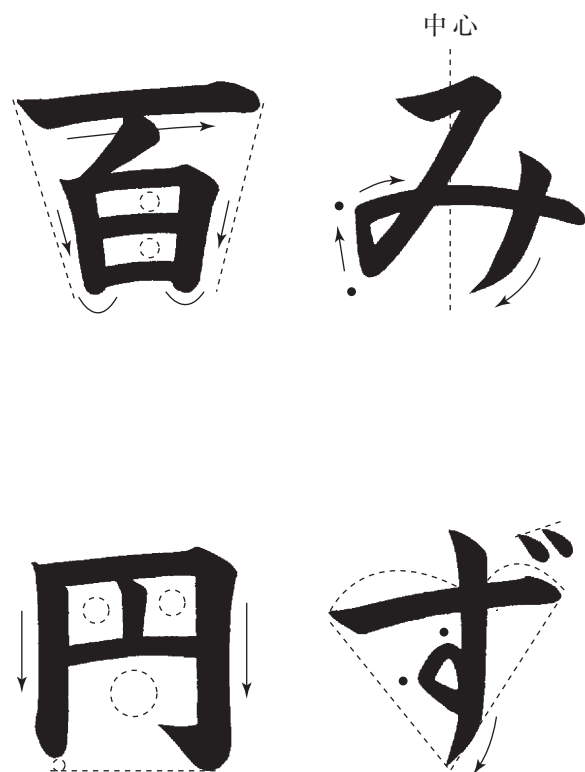
◇作品の出し方

- 一、選定用紙（五行・四行）に書いて下さい。
- 一、作品には、支部名（校名）学年、氏名を書き入れて下さい。
- 一、筆記用具は自由です。（黒色に限る）
- 一、四行用紙を使用してもよろしい。その場合は、文章を適当に短くして下さい。
- 一、成績は評価により毎月変わります。
- 一、支部会員は、出品ラベルを必ず貼って下さい。貼っていない方は新入とみなします。





幼年〜小二年  
酒井智仔書





小五  
野冬  
菜の

い気  
合

小三

道

気

野

合

菜

央

道中  
央

小四

小三〜小五年

水野の  
碧友書

中二・三  
息無 災病

小六  
科自 学然

小六〜中二・三年  
玉樹小華書

選

然

無

学

病

球

中  
選卓 手球

# 第85回 毛筆検定試験受験要項

12月19日締切り

## ■受験にあたってご注意

▼検定受験者は、十二月のすべての毛筆月例競書をお休み下さい。(短期特別課題は出品可)

▼一覧表の最高昇段級位というのは、各コースで取得できる最高の段、級位を示したものです。現在この段級位にある人は、それ以上のコースを受験して下さい。

## ■出品方法

▼作品は、必ず一覧表に明示した順序にそろえ、右肩をホッチキスでとじて下さい。

ただし教範コースは、上から、①漢字②かな③細字④教育部手本課題⑤条幅⑥書歴(初回のみ。詳細は本部へ問合せ)の順にそろえ、ゼムクリップでとじて下さい。

▼検定作品と月例作品を同封する場合は、必ず、二つのビニール袋に分けて入れ、表に「検定」「月例」と明記して混同しないようお願いいたします。

▼支局・支部には「検定作品出品明細書」を一月号配本時に同封しますから、所事項記入の上、作品、受験料と同封して下さい。さらに、正確を期す上から受験者名簿を添付して下さい。

▼封筒に「検定受験」と朱書して下さい。

▼受験料は、為替か小為替で作品と同封するか、現金書留による送金に限ります。(振替、その他は不可)

●締切り 令和五年十二月十九日(本部必着)

●送り先 大書心会検定試験係

●発表 令和六年三月号

▼肉筆手本希望者は、毎月裏表紙掲載の先生へ、現金書留(返信用封筒同封)でお申込み下さい。

(左記料金は、一点についての金額です。ただし、コピー手本・添削料は四割の価格といたします)

※条幅の原寸大のコピー手本はありません。

・一般部1級・三段コース

漢字半紙……一、二〇〇円  
細字・かな……一、八〇〇円

・活字課題

五段コース以上  
会友コース以上  
漢字半紙……一、四〇〇円  
細字幅紙……三、八〇〇円  
細字幅紙……二、〇〇〇円  
教育部……九〇〇円

## ◆一般部1級・三段コース

コース	課題	最高昇段	課題	漢字		かな	細字	計	受験料
				楷書	行書				
一般部	1級コース	1級まで	下掲課題 かなは月例級位課題	1	1	1	—	3	1,600
	三段コース	三段まで	漢字は下掲、かな・細字は月例級位課題	1	1	1	1	4	2,100

[三段コース漢字課題]

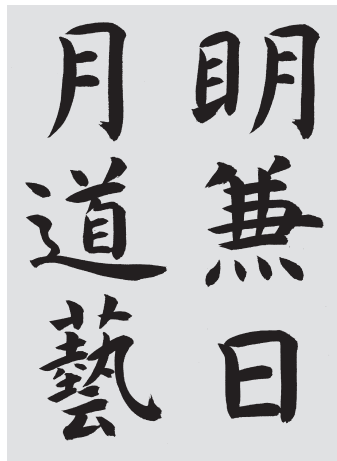
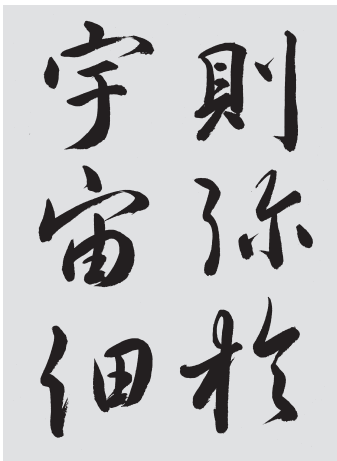
[1級コース漢字課題]

《集字聖教序》

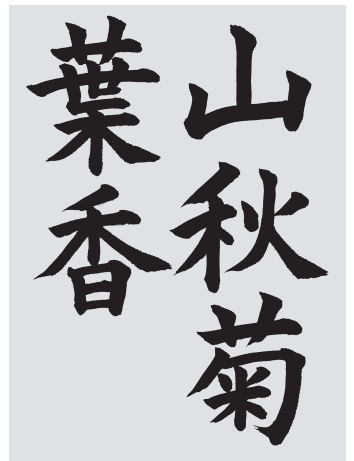
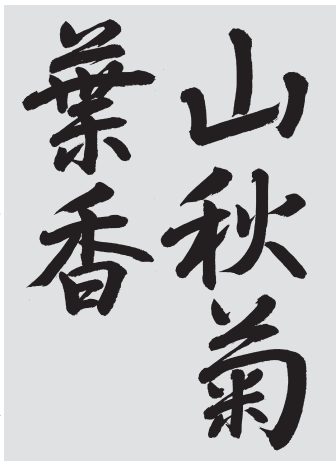
《孔子廟堂碑》

《行書》

《楷書》



やまぎら  
山秋にして  
きくよこうば  
菊葉香し



神谷葵水先生臨

清水翠芳書

コース	課題	受験資格	最高昇位	課題	漢字			かな	細字	条幅	教育部 手本	計	受験料
					楷書	行書	草書						
一般部	五段コース	有段者 支局・支部長	五段まで	下記(活字)	1	1	1	1	1	—	—	5	2,700
	書範コース	有段者 支局・支部長	書範まで	下記(活字)	1	1	1	1	1	1	—	6	3,200
	教範コース	書範 支局・支部長	教範	下記(活字)	1	1	1	1	1	1	2	8	4,200
教育部	普通コース	—	12月しめきりの月例競書課題									1	420
	会友コース	四段以上の中学生 準会友の小学生	12月しめきりの月例競書課題と下記活字課題(行書)									2	740

◎師範試験は、毎年2月に単独で実施しています。

**五段・書範・教範コース受験のきまり**

- 一、五段・書範・教範コース受験は、上掲一覧表のと  
おりの受験有資格者に限ります。
- 二、教範コースは単位合格が認められますが、単位を取  
得られていても、受験の際は改めて全科目を提出し  
て下さい。ただし、合格科目については、審査の対  
象から除きます。
- 三、単位合格は、二年以上検定試験を受験しないと無効  
になります。

**五段・書範・教範コース課題**

**漢字**

五段コース以上共通(半紙)

図版で示した三つの法帖の各六文字を、それぞれ半紙に  
臨書して下さい。

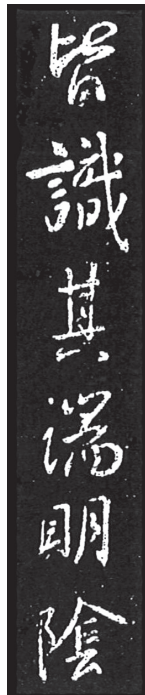
▼孔子廟堂碑

質稟生徳而降



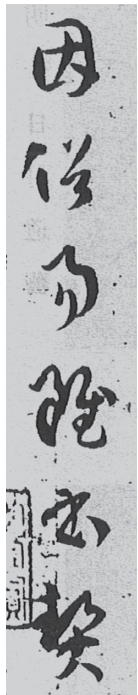
▼集字聖教序

皆識其端明陰



▼書譜

因俗易雖書契



**かな** 三段コース以上共通(かな用半紙)

次の和歌を、かな半紙にちらし書きにして下さい。  
◎みかの原わきて流るる泉川  
いつみきとてか恋しかるらむ(藤原兼輔)

※9頁参照

**条幅** 書範・教範コース共通(画仙紙半切)

次の語句を、画仙紙半切に体裁よく書いて下さい。

晩径黄花開有色  
暁程残月落無声

**細字** 五段コース以上共通(半紙)

次の語句を、行書または行草体で体裁よく書いて下  
さい。

光陰矢の如しと申しますが今年も  
残すところあと十日ほどとなり  
ました 皆様お揃いでよき春を  
迎えられます様お祈りします

**教育部手本課題** 教範コースのみ(半紙)

小 1 やね  
小 6 賛成  
多 数

※氏名は、各学年に合わせてお書き下さい。  
(小1年はひらがなで書くなど)

**会友コース課題**

校庭

(行書)

▼十二月締切りの自分の学  
年の月例課題一枚  
▼上の語句の行書一枚  
計二枚を一組とし、右肩  
をとじて出品のこと。